第５学年　　　道徳学習指導案

１　主題名　相手のために　Ｂ－（７）　親切、思いやり

　資料名　くずれ落ちた段ボール箱　（出典　文溪堂　「５年生の道徳」）

２　主題設定の理由

（１）ねらいとする価値について

　　　　　　お互いの身になって考え、誰に対しても思いやりの心で接することは、より良い人間関係を築くだけでなく、明るく住みよい社会を築くことにもつながる。しかし、生活の中では、自己中心的な考えや、打算的な考えによって相手の立場に立った行動ができないことはよくある。さらに、ふだんの生活で余り関わりのない人に対しては、相手の気持ちを考えた行動をすることは、なおさら難しくなる。

高学年においては、特に相手の立場に立つことを強調する必要があると考える。どのように対処することが相手のためになるかをよく考えた親切な行動が求められる。本当の親切とは、行為の相手を選んだり、見返りを期待したりするものではない。たとえ人に認められなくても相手の立場や気持ちを考え、誰に対しても温かく接することができるようにしていくことが必要であると考える。

（２）児童の実態について

　　　本学級の児童たちは、全体的に穏やかで素直である。学級の中では、やり方が分からない友達に教えたり、困っている友達がいると手伝ったりする行動が見られる。しかし、よく見ると仲が良い児童同士だったり、同性だったりという実態がある。また、学級以外の児童へは、声をかけたり手助けをしたりするなどの関わりをもつことをためらう児童も多い。

　　　本時の内容に関わる「親切，思いやり」についてのアンケートを行った。親切な行動をしたことがある児童は、ほぼ全員であった。しかし、８割の児童が「知っている人に親切にできる」に対して、「知らない人にも親切にできる」のは全体の２割ほどであった。また、「親切にしたあと何を期待しますか」という質問には、２割弱の児童が「何も期待しない」に対して、７割強の児童が「笑顔」「ありがとうの言葉」であり、１割弱の児童が「ほめ言葉」「ごほうび」を期待しているという実態である。身近な人に対しての親切だけでなく、誰に対してもというねらいに迫るとともに、人に認められなくても相手の気持ちを考え、温かく接することの大切さに気づかせたい。

（３）資料について

　　　　　　本資料は、孫が積んである段ボール箱をくずしてしまって困っているおばあさんの代わりに、わたしと友子が整理していると、事情を知らない店員にしかられてしまう。おばあさんにお礼を言われてもすっきりしない二人であったが、数週間後の朝会で、店員からおわびの手紙が来たことを知り、二人の心は明るくなるという内容である。主人公の心の動きを追いながら心の葛藤やすがすがしさに十分共感させ、たとえ人に認められなくても、相手の立場を考え、温かく接することの大切さに気づかせたい。この話をもとに本当の親切とは何かを考え、その大切さに迫り、自己を振り返らせることで、相手の立場に立って物事を判断し、自分の得にならなくても相手のために接しようとする態度を養っていきたい。

　　　３　指導計画　　１時間完了（本時）

４　本時の指導

（１）　ねらい

相手がどんなことに困っているのかを考えて、相手を助けようとして取った行動は、たとえそれに見合った見返りがなく得にならないと感じることがあっても、相手はとても感謝している尊い行為であることを理解する。

（２）　準備

　　教師　　読み物資料、場面絵①～④、ワークシート、山積みの段ボール箱、ホワイト黒板、プロジェクター、パソコン、心のバロメーター

（３）　関連　　明るい心２－（２）

４年「落ちていたきっぷ・カンボジアの子どもたちへ」

　　　　５年「小さなできごと・おばあさん、待ってね」

　　　　６年「二つの投書・おばあちゃんの指定席」

（４）　指導過程　　　　◎：中心発問　　　　☆：評価　　　形資：学習形態・資料

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 分 | 学習活動と主な発問 | 形資 | 支援及び指導上の留意点 |
| 方向付け | 3 | １ 「親切」にされた経験を思い出す。* 親切についてのアンケートを確認しま

しょう。 | 一斉スクリーン（アンケートの質問②・③） | ・事前のアンケートをパワーポイントで表示する。・本時は「親切」について話合いを行うことを明確にする。・クラスの実態をグラフで示す。 |
| ねらいとする価値の追求・把握 | 35 | ２　資料「くずれ落ちた段ボール箱」前半部分（P100～P102. ℓ12）を読み、主人公「わたし」の気持ちや考えについて話し合う。（１）段ボールの整理をし始めたときの、わたしの気持ちについて話し合う。○「わたし」は、どんな気持ちで段ボールの整理をし始めたのでしょう。・大変そうだから手伝おうか。・男の子が心配だろうな。・だれも手伝わないから、力になりたい。 | 場面絵①山積みの段ボール箱一斉 | ・資料内容の理解を促すために、場面提示をする。・手助けしようと判断したときの気持ちをとらえさせる。・周りの人の対応（しらんぷりしていた）やおばあさんが困っている背景にも着目させ、「わたし」が手伝った理由を考えさせる。 |
| 5 | （２）店員さんに怒られたときの、わたしの気持ちについて話し合う。○店員さんに怒られているときの「わたし」はどんなことを考えたでしょう。・いきなり怒らなくてもいいのに。・怒られるくらいなら、手伝わなければよかった。・自分たちのせいじゃない。 | 場面絵②一斉 | ・「崩れた段ボール箱を直しているときに、店員に怒られる」という場面を動作化し、主人公の気持ちを考えさせる。・親切な行いが誤解されて、手伝ったことへの後悔する「わたし」（二人）の気持ちに共感させる。 |
| 8 | （３）おばあさんからお礼を言われたときの、わたしの気持ちについて話し合う。◎おばあさんからお礼を言われたとき、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。・いやな気持ちが残って、すっきりしない。・お礼をいってもらえたのは、うれしいけど、店員さんのことが気になる。・男の子が迷子にならなくて済んだから、よかった。 | 場面絵③一斉 | ・報われた気持ちと、すっきりしない気持ちでいる心の葛藤をさせる。・感謝の言葉をかけられても、まだ複雑な気持ちでいることを押さえる。・手伝っていなかったら、どうなっていたかも考えさせる。・心のバロメーターを使用することによって、主人公の心情の変化を視覚的にとらえさせる。 |
|  | ５ | （４）資料「くずれ落ちた段ボール箱」後半部分（残り）を読み、結末を知る。○校長先生から手紙が読まれたとき、「わたし」はどんなことを考えたでしょう。・みんなの前で紹介してもらえて、誇らしい。・店員さんに分かってもらえてうれしい。・おばあさんを助けてよかった。 | 場面絵④一斉 | ・誤解がとけて、晴れ晴れしい気持ちを抑える。・心のバロメーターを確認させる。 |
| 価値の主体的自覚 | 8 | ３　役割演技を通して、道徳的価値の自覚を深める。○後日、おばあさんからお礼を言われた「わたし」は、どんなことを考えたでしょう。・わざわざお礼を言ってもらわなくても良かったのに。・おばあさんは本当に喜んでくれていたんだ。 | 一斉 | 【役割演技を、資料にはない場を想定して行う】・おばあさんが「わたし」に直接お礼を言ったことを想定し、「わたし」がどんな対応をしたかを考えさせ、役割演技をさせる。・見た人の感じたこと・演じた人の感じたこと |
| 5 | ４　授業を通して学んだこと・感じたこと・自分の経験やこれからの自分はこうありたいなど、思うことを書く。 | 個人ワークシート | ・授業を通して、自己を見つめ、「親切」についての自分の考えを書かせる。☆おばあさんの置かれている状況を考え、自分の得にならなくても相手のために接することの大切さに気づくことができたか。 |
| まとめ | 3 | ５　感想を発表する。 | 一斉 | ・「親切」についての考え方を共有し、他者の感じ方を知ることで、より深める。 |

（５）板書計画

場面絵④

場面絵

①

　　　　　親切・思いやり

くずれ落ちた段ボール箱

わたし

◎段ボールを整理し始めたときの気持ち

　　・大変そう

　　・男の子が心配かな

　　・だれも手伝わないし、力になりたい

◎店員さんに怒られたときの気持ち

・おばあさんのためなのに

　　・いきなり怒らなくて

・自分たちのせいじゃない　　　　　

・手伝わなきゃよかった

◎おばあさんからお礼を言われたときの気持ち

　　　　・すっきりしない

　　　　・店員さんのことが気になる

複雑な気持ち　 

・お礼を言ってもらえたのは、うれしい

　　　　・おばあさんの役に立てた

・少しすっきり

　.   

◎手紙を読まれたときの気持ち

　　・誇らしい

　　・店員さんにも分かってもらえて、うれしい

　　・おばあさんを助けてよかった

相手のため

場面絵

③

場面絵

②

（６）評価

相手がどんなことに困っているのかを考えて、相手を助けようとして取った行動は、たとえそれに見合った見返りがなく得にならないと感じることがあっても、相手はとても感謝している尊い行為であることを理解することができたか。

５　反省

６　御高評

